創作童話　『お日さまとなかよし』

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

address：〒174-0063　東京都板橋区前野町４－８－６
tel & fax：03-3960-6052　　e-mail：info@npo-soe.jp

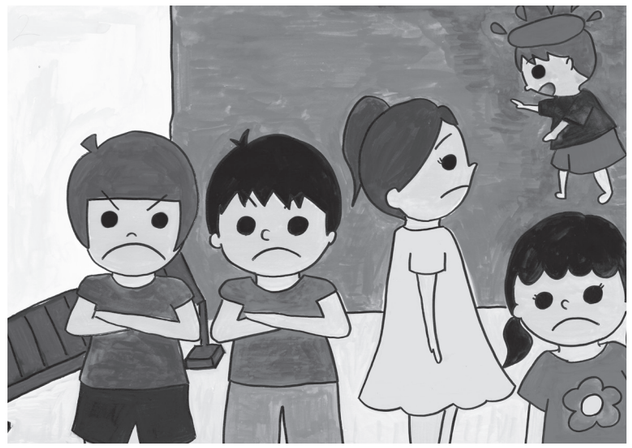
協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

①

二回も雨に降られ、　延期になった運動会の日、
三年二組のクラスで
一番背が低いけれど、　足が速い大樹の大ちゃんと、
運動は苦手だけど、
生きものと実験が大好きな　くりくり目の真ちゃん、
ドッチボール・縄跳びならだれにも負けない
元気じるしの女の子　みずきが
教室で、雨空をにらみながら、
ぶつぶつ文句を言い合っていました。
「あーあ、今日も雨か。やになっちゃうよな～。」
と、大ちゃんが言うと
「いつになったら、運動会ができんの？」
と、真ちゃんが　ため息をつきました。
「世界のどこかに　太陽が行っちゃったわけ？」
と、みずきが言うと
「おまけに勉強だってさ。」
と、大ちゃんがやけくそみたいに、
ボクシングのパンチのまねを
シュシュシュッとしました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



②

放課後、　雨がどうにか上がったころ、
みずきの家の庭に、　大ちゃんと真ちゃん、みずき、
そして、同じ3年生のなおちゃんがそろうと、
オニごっこの相談をし始めました。
そこに、お日さまの子　サータがやってきました。
「遊ぼう！」
とサータが言うと、大ちゃんが
「やだよ、今日は。」
と、言いました。
サータがびっくりして
「どうして？　いつも入れてくれるじゃない。」
と、言うと、
「今日はおこってるの。」
と、大ちゃんがほっぺたをふくらませて言いました。
「そう、二回も運動会ができなかったから、
　みんなおこってるの。」
と、真ちゃんも言いました。
「運動会　二回もできなかったのか。」
サータが申し訳なさそうに言うと、
「だから、今日は遊べない。」
と、大ちゃんがきっぱり言いました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

③

サータは　わけがわからないまま、
一人ぼっちになりました。
運動会ができなかったのは　確かに雨が降ったから。
でも、お日さまが出なかったわけは　わかりません。
雨の子チャプが
「サーター！遊ぼうよ。」
と、うれしそうに走ってきました。
「おい、チャプ！
今日も昨日も　雨を降らせたのはチャプだろ。
それなのに、おれがみんなから叱られたんだ。」
と、サータが顔を真っかっかにして
ムシャクシャ気分をチャプにぶつけました。
「おれが降らせたわけじゃないよ。
天の雨雲の王さまがやったことさ。。」
と、チャプはおこって言いました。
「それに、
お日さまが出れば、黒雲だってひっこむのにさ。
お日さまが風邪ひいて、欠席したんじゃないの？」
なんていうものだから、サータは、
「お日さまが風邪ひくなんて聞いたことがないよ。」
といいかえし、ぷいと後ろを向いてしまいました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

④

サータは　困り顔のチャプをおいて、
突然、空へ飛びあがりました。
実はサータはある決断をしていたのでした。
サータはぐんぐん大空を突き抜けていきます。
「サーター、どこに行くんだよー。
　帰ってきてくれよー。」
下からチャプの泣きそうな声が聞こえてきます。
その声が聞こえないふりをしながら、
どこまでもどこまでも飛んでいきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑤

サータはついに、目指した場所に到着しました。
そこはお日さまのところだったのです。
どうしても聞きたいことがあったからでした。
「お日さま～。おれの話を聞いてください。」
「どうしたんだね。」
「この頃、お日さまが出ないで、
雨ばかり降っています。
おかげで、子どもたちの運動会ができないのです。
なぜ、お日さまが出ないのですか。
風邪をひいたんですか？
おれ知りたいんです。」
すると、びっくり顔のお日さまが
「私は毎日、ほらこの通り、
炎を激しく燃やして、
周りの星へ光と熱を届けている。
お前がいる星にも届けているのだよ。」

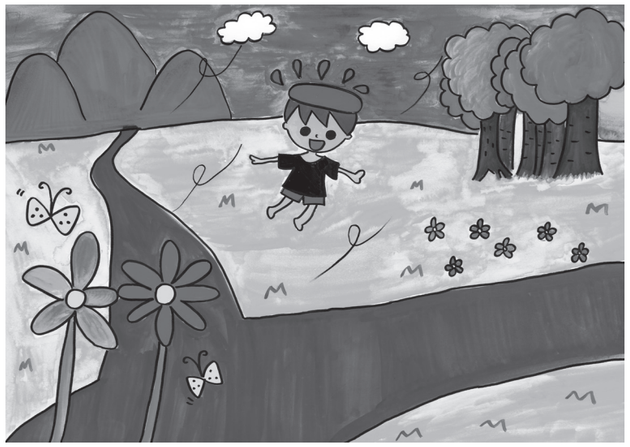
特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑥

後ろを振り返ると、
確かに　たくさんの星にも光が届いているようです。
「あれ、本当だ。
でも、雨ばかり降って、お日さまが見えなかったよ。」
すると、お日さまが笑っていいました。
「私は、地球が1年間に使う全てのエネルギーを
たった1時間で地球に送っているのだよ。
雨の日は　厚い雨雲が
私の光をさえぎっているだけだ。」
それを聞いたサータは、
「お日さまはずっと、出ているんだね？
雨雲がじゃましなければ　光は届くんだ。
やっぱり、雨雲が悪かったんだ。」
というと、お日さまは
「雨を悪くいってはいけないよ。
雨は、私の光と熱の力で　雲ができるから降るんだ。
雨のお陰で、植物や森を育ち、
たくさんの食べものができる。
だから、地球では命が生き続いているんだよ。」
それを聞いたサータは
びっくりして腰を抜かしそうでした。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

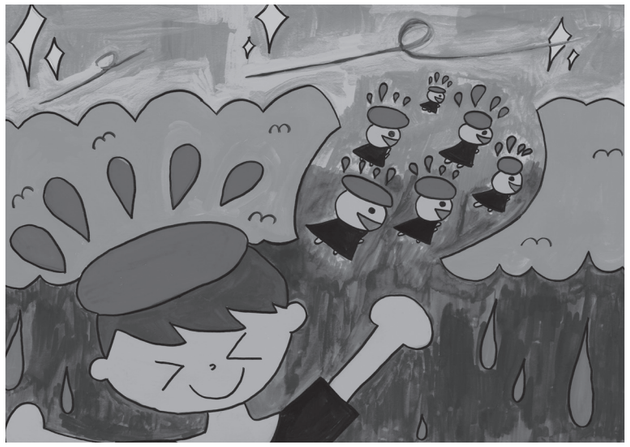


⑦

「風も、私の光と熱の力で
温められた空気が動いてできるんだ。
私はエネルギーをつくる工場、
光も水も風も私の子ども。」
と、お日様が　やさしく答えてくれました。
「へえ、
雨が降るから、生きものが生きていけるんだ。
お日さまのエネルギーが、
水や風の、もとのエネルギーになっているとは
知らなかったです。
雨の子チャプとは、兄弟だったなんて。」
と、大発見をしたサータは
目をキラキラさせながら言いました。
そして、
チャプにちょっと悪いことをしたような
気がしました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



⑧

「ほら、みてごらん。
お前の仲間の私の子どもたちが、
みんなで黒雲に向かって飛んで行っている。」
お日さまのいう方を見ると、
たくさんのお日さまの子が、
固まって、黒雲を突き抜けようとしています。
元気が出たサータも仲間の中に入りました。
すると、お日さまの子たちの光と熱で、
黒雲の上に風がふき始めました。
そして、ついに黒雲の真ん中に大きな穴が開きました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑨

黄金の光が天から地上へ降り注ぎ、
お日さまの子どもたちが
上から手をつないで大空に広がっていきます。
見事な七色の虹が、空に大きな橋をかけました。
ようやく、地上に戻ってきたサータに、
虹を見つけたチャプが
「きれいだねえ。お日さまのかぜが治ったんだね。」
とうれしそうにいいました。
すっかり気分が良くなっていたサータは、
「黒雲がお日さまに負けちゃったんじゃない？」
と強がりを言いました。
そして、こう付け足しました。
「チャプ。お日さまがね、教えてくれたんだ。
おれとチャプは どちらもお日さまのエネルギーから
できたもの同士なんだって。
おれたち兄弟だったんだよー。」
それを聞いたチャプはサータをまじまじと見ました。
そして、二人は同時に
「アハハハハ」
と虹に向かって大きく笑いました。
それから、二人は互いの両手をどんとつきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

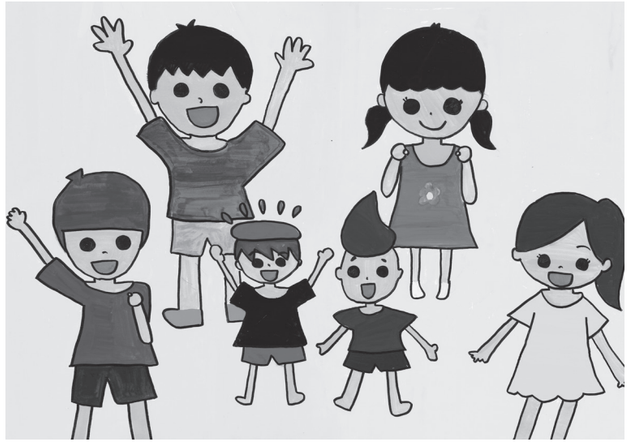
⑩

大ちゃんや真ちゃん、みずきの学校の校庭にも、
大きな光の輪が広がりました。
校庭の水たまりが
どんどん小さくなり、乾いてきます。
明日の運動会、間に合うでしょうか。

校庭のひまわりや、植物が、
背中をしゃんと伸ばして、
光を受けて輝いています。
時間がたつうちに空はすっかり青空に代わり、
ヒマワリがお日さまの動きに合わせ、
南から西へ顔を向けて動いていきました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



⑪

運動会が無事に終わって、
みずきの家の庭に、なかよしが集まってきました。
そこにサータとチャプもやってきました。
「サータ、お天気を晴らしてくれてありがとう。」
と、みずきが気分よくお礼を言うと、
「チャプも雨雲をどかしてくれたんでしょ。
ありがとう。」
と、なおちゃんもチャプにお礼を言いました。
サータとチャプは、うれしくなって、
二人でピョンピョン飛びはねました。
大ちゃんが、
「サータ、この間はごめんな。
今日はみんなでいっしょに遊ぼうな。」
といったので、
みんな、幸せいっぱいな顔になりました。

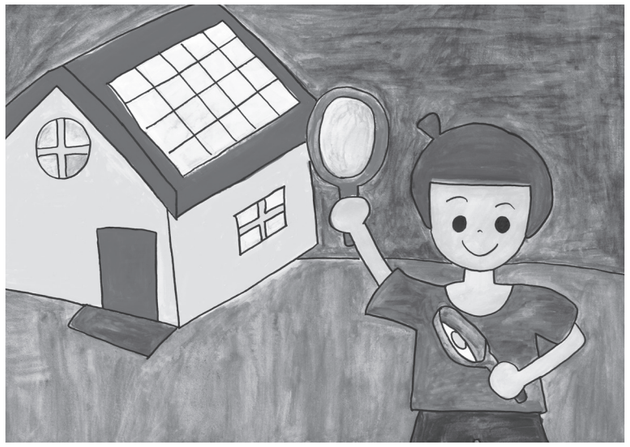
特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。

⑫

サータが、うれしそうに
みんなをぐるっとみてから、言いました。
「あのあと、どうしてお日さまが出ないのか、
心配してお日さまに会いに行ったんだよ。
お日さまが言ったんだ。
毎日、毎日、光と熱をここに送っているんだって。
時々、雨雲が光をさえぎったりするけどね。
雨もそのエネルギーで、
地球上の生きものと植物を育てているんだって。
地球のエネルギーは、
ほとんどがお日さまの光と熱から作られているって
わかったんだ。
これからもず～っと光と熱を送り続けるって
いっていたよ。」
お日さまから聞いた話を胸を張って報告しました。
みんな感心したようにじっとサータを見ています。
中でも真ちゃんは大きく口を開けたまま、
サータの話に夢中でした。
「おれとチャプは、お日さまの子ども同士。
お日さまブラザーズだね。」
と、サータとチャプが、ガッツポーズしました。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。



⑬

みずきの家の屋根に付けられた
お日さまの照明が家の中へ入れられ、
電気もつけないのに、部屋を明るくしています。
お日さまでお湯をつくる　温水装置もついています。
真ちゃんが、
「お日さまの光と熱ってすごいんだね。
お日さまの光で本当にお湯ができるかな。
うまくいったら、
目玉焼きだってできちゃうかもしれない。
鏡で光を集めてやってみようよ。」
というと、大ちゃんが
「鏡で光を集めるなんて、無理なんじゃない？」
と、自信なさそうに言ったとたん、みずきが
「おもしろそうじゃない！
やってみたらわかるわよ。」
と、掛け声をかけました。
みんな、早速、鏡など道具を用意しました。
さて、本当に光って集められたり、
お湯ができたり（目玉焼きが焼けたり）するのかな？
真ちゃんが、みなさんも確かめてみてと
いっていますよ。

特定非営利活動法人　センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

協力：東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地ゼミ
この紙芝居は、板橋区の 「ボランテイア・NPO 活動公募事業補助金」を活用して作成しています。